

稲陵会報

第58号

発行
横田高等学校会
稲 陵
令和6年
3月1日

いあいさつ



稲陵会 会長
石原 肇
(第42期)

皆様お元気でございますでしょうか。日頃から稲陵会や母校発展のために、ご支援ご協力を頂き有難うございます。

コロナ禍も落ち着き、12支部の稲陵会評議員会を稲陵会館で開催する事ができましたし、県外の各支部総会も元の活動がなされており、嬉しく思います。

今年の評議員会では、年間事業計画の報告及び事業会計の計画・役員改正等が行われました。中でも、会費徴収の在り方等の意見が出され、話し合いをしました。

現在の各支部の会費は、8年前に、少子化や生徒減等の理由で、年500円の会費に設定され、各支部はそれぞれの会員数に応じて会費納入を行ってきました。しかし、地域全体の過疎少子高齢化現象はより深刻化し、地区の役員の皆様は、徴収に苦慮されています。

そこで、他校の同窓会の現状も

参考にして、検討した内容を元に、支部代表者会を新たに開催しました。主として近隣の普通高校を対象に、稲陵会と比較してみました。その結果、組織等は大差が無いものの、会費が1000円以上の協力金と、卒業10・20・30周年に、母校へ〇〇の寄付金をしていくところもあり、活動内容が予算規模にそった事業となっている点の違いがあります。例えば、卒業名簿を定期的に発行したり、会報やインターネットに活動紹介や会則を載せたりして、前向きな取り組みがなされている点が印象的でした。地区代表者会でも各支部の状況及び、他の高校の実状を踏まえて審議しました。稲陵会員の皆様のご苦労や活動を改めて感じた次第です。

現在、横田高校では、学校後援会やコンソーシアムの在り方、少子化に伴う高校魅力化を検討する活動がなされており、

今後さらには稲陵会発展のために、引き続き検討していきたいです。皆様方のご協力を切にお願い申し上げます、御挨拶とします。

幸いはここにあり



校長
深田 新

こんにちは、本校勤務3年目となりました深田でございます。稲陵会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に対しご指導・ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

5月にコロナが第5類扱いとなり、各支部活動が数年ぶりに再開されています。県外では6月の東京支部総会に始まり、9月に関西稲陵会総会、新年明けて1月に広島・山口支部総会並びにそれぞれ県内・町内におきましても、松江支部総会(6月)、三成支部代議員総会(10月)、雲南支部総会(11月)、教職員会(1月)と続き、皆様の母校愛に包まれながら充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございます。

母校の近況をお伝えします。三年生は就職・公務員、各種学校、大学推薦入試、ほぼ順調に進んでおり、進学コースの生徒達が大学入学共通テストに挑みます。部活動では各々が地域貢献活動をふくめ実績を残した一年でございました。12月下旬に「全校高等学校選抜ホッケー大会」が山梨県及び東京都で開催し、稲陵会OBの恩田賢二教諭、同じく伊藤直登教諭

が指揮する女子・男子ホッケー部がアベック出場しました。得点力アップを課題に努力してきた女子チームは、2回戦でシード校である宿敵に快勝して勢いに乗り、相手を圧倒する勝ち方で夏の全国総体に続いて第三位に入賞しました。また、新チーム結成以来、原点に立ち返り一からチャレンジしてきた男子チームは、昨年度「三冠」のプレッシャーを皆で乗り越え、鉄壁の守備から素早いパス回しで攻撃する横田のホッケーを展開し、決勝では山陰対決を逆転で制し2年連続8回目の優勝を飾りました。男子主将西村さんは「最後にやっと日本一を獲れました!」と嬉しそうな笑顔を見せられました。山梨学院大学ホッケー場及び東京の大井オリンピック・ホッケー競技場では、大会運営を手伝っていた大学に通う本校卒業生や東京在住の諸先輩方が大勢駆けつけてくださり、選手の保護者と共に声援を送り選手達の背中を押して頂きました。

文化部においては、演劇・放送部が米子市で開催された中国地区高等学校演劇発表会に3年ぶりに出場しました。キャスト2名と音響・照明スタッフ2名の生徒4名と少人数ではありましたが、本校演劇部を8年前に立ち上げた顧問の伊藤靖之教諭の脚本「サイワイはここにあり」を大舞台で見事に上演しました。実は、本校は中国高等学校演劇協議会の事務局を務めており、稲陵会OGの小田川七恵教諭も生徒引率に加えて大

会運営を支える大車輪の活躍でした。「サイワイはここにあり」は、奥出雲町の少子化・過疎化、本校の生徒数減少、演劇部員不足に焦点を当て、「あなたにとって幸いとは?」そして「今も、未来も、幸いはここにあるのか?」を観ている人に問いかける二人劇です。部員達は全国的な視点から考えるべき社会問題に正対し、この問題を自分事(自分たち事)として捉まえ、演劇を通して問題の本質を社会に発信してくれました。また、他校演劇部員との交流を通して、賞賛や激励のメッセージをたくさん頂きました。全国の舞台で披露したい内容であり、出来栄であったと思っております。この他、学習活動、地域貢献活動、部活動、学校行事等における横高生の取組の様子について、本校ホームページをご覧頂けるとありがたいかと存じます。

おわりに、本校が知徳体バランスよく教育活動を行うことができ、また生徒達、教職員がそれぞれ力を発揮できるのは、稲陵会の諸先輩方が陰に陽に支えてくださるからであり、その支援の賜物であることは言うまでもありません。この紙面をお借りし深く感謝申し上げます。そして、教職員一同、これからも一層精進し、ふるさとや母校を愛し、地域を支えていける後輩達を育て、地域社会から愛される横田高校を創りあげて参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願いいたします。

支部だより

東京支部総会

幹事長

藤木 真

(第60期)

第65回東京支部総会、懇親会を本部から石原肇会長、安部隆副会長、田村久夫横田支部長を、母校から深田新校長をお迎えし、6月17日 アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催いたしました。4年振りの開催でしたので、関西支部からも出席いただくなど多くの皆さまにご参加いただきました。



先ず、出席者全員で前回開催(61回)以降ご逝去された加藤延之元支部長(32期)をはじめとする

会員・関係者のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

三澤支部長からはようやく本会が開催できた喜びと感謝の挨拶がありました。石原会長からは稲陵会本部や奥出雲町の近況について、深田校長からは母校の生徒さんの活躍の様子についてお話しをいただきました。その後、役員改選を行い、三澤支部長が再任されました。

お待ちかねの懇親会は、杠正吉様(37期)の乾杯発声でスタート。それぞれのテーブルで話が弾み、尽きることなく続きました。校内幹事の小田川先生、伊藤先生、恩田先生のコメントも紹介させていただきました。そして豪華景品が揃ったお楽しみ抽選会で更に盛り上がった後、校歌を斉唱してお開きとなりました。出席した皆さんが久々の再開を喜び合った楽しい総会・懇親会でした。

松江支部総会

支部長

糸原 勝 則

(第61期)

稲陵会松江支部は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、5年ぶりとなる総会を、6月24日(土)、居酒屋「雷神」(松江市寺町、第68期 小林勝美氏の経営)にて開催しました。来賓として稲陵会の石原会長、安部副会長、細木副会長、末森副会長、比田支部の井上事務局長、高校から深田校長のご出席をいただきました。

今回の開催に向けては、コロナ禍で開催できなかった期間中に役



その効果もあってか、当日は、久しぶりに30歳未満の方、4名を含む29名の会員の皆様にご参加いただきました。

総会では、私の挨拶後に、石原会長及び深田校長先生にそれぞれご挨拶いただき、ちょうど松江支部総会が開催できなかった期間に行われました本校創立100周年記念事業などについてお話をいただきました。その後、会計報告などについて承認いただき、懇親会となりました。

5年ぶりの開催で、皆さん、世代を超えた懐かしい話で盛り上がったものと感じております。

なお、松江支部におきましては、

(今後、LINE、メール等による案内方法へ変更予定)

- ・会場を従来のホテルから、出かけやすく、かつ経費を抑えられる居酒屋へ変更(稲陵会会員が経営されているお店を貸切)
- ・若い方に出てもらいやすいように、会費の傾斜配分を大胆(ノンアルコールの20歳未満の女性は千円など)に実施

の案内をお送りいたします。

●稲陵会松江支部 事務局長

板垣正明 連絡先



左から、深田校長、安部雲南支部事務局長、石原稲陵会長、澁川会長、西本顧問、森田副会長、山田副会長

携帯電話番号

090-7122-8972

メールアドレス

tokidokimajime@gmail.com

関西稲陵会「集いの会」

会長

澁川 博利

(第50期)

9月10日、関西稲陵会は支部創立65年目を迎え、大阪市難波道頓堀ホテルにて、コロナ禍休業後、4年ぶりに「総会・懇親会」を開催、今年も85名の参加者がありました。

本部からは石原肇会長、雲南支

部から安部且彦事務局長、母校からは深田新校長、他支部からの交流として、東京支部から卜藏健治さん、佐藤幸博さん、広島山口支部から安部英幸さんにご出席いただきました。

総会は石原智禎さんの司会で、

澁川会長のあいさつ、令和元々4年度活動報告、5年度活動計画案、会計報告・会計監査報告、会則改正・役員選任案が行われ、全会一致で承認されました。その後、石原会長の来賓祝辞、深田校長の母校の近況報告がありました。

懇親会は、川島幹事の進行で森田孝枝副会長のあいさつ、西本功顧問の乾杯の音頭で始まり、同期を中心としながらも、期別や地域を越え、久々の再会とあつて懐かしくも楽しく交流を深めました。恒例のアトラクションゲームでは参加者が豪華賞品をめざし、大いに盛り上がりました。

瞬く間に時間が過ぎ、参加者全員による校歌斉唱の後、山田貫一副会長のあいさつで閉会となりました。令和6年度は9月8日

(日)に道頓堀ホテルでの開催を予定しています。

また、休会していたレクリエーションの専門部会である、ゴルフ(須山耕二部長)やハイキング(鐵池宜晴部長)は本年度から再開しています。

関西稲陵会は横田高校卒業生であれば誰でも参加できます。総会には参加された方が楽しんでいただけるよう、役員一同いろいろな企画を考えています。来年度も是非たくさんの方々の参加をお待ちしています。

◆関西稲陵会に関するお問い合わせ

せは

TEL

090-7879-8765

事務局 藤本智子

三成支部代議員総会

支部長

安部 隆史

(第63期)

稲陵会三成支部は令和5年度三成支部代議員総会を10月31日

(火)、カルチャープラザ仁多において開催しました。稲陵会より石原会長、安部副会長、細木副会長、末森副会長、横田高校より深田校長、小田川先生、伊藤先生にご臨席いただきました。

支部長の挨拶では、横田高校の生徒数が減少する中、稲陵会活動において会員の確保が求められており、まだ加入いただいていない横高OB、OGの方に代議員様から声をかけていただき、一人でも加入していただくよう勧誘のお願いをいたしました。

次に、石原肇稲陵会長から、近年の学校生徒数の状況、評議員会での意見や検討状況についてお話しいただき、会費のお願いにあわせてご挨拶をいただきました。

また、深田校長先生から、横田高校の教育方針と学校の近況について、学習活動、部活動、地域活動の紹介をしていただきました。「教科探究学習」の取組として、古典担当の小田川先生から、地域の百人一首の会に参画いただき、生徒が短歌を作成して発表する学習

会成、文化系の部活動の活躍について報告があり、今後の大会に対して声援をいただきたいとお願いがありました。地域貢献活動として、部活動の生徒らが地域の行事に出かけて交流や体験を通して学んでいることを紹介いただきました。

総会の議題として、事業報告及び会計報告、今年度の事業計画及び予算案についてご審議いただき



原案通り承認されました。総会の後には懇親会を行い、稲陵会役員の皆様と情報交換ができました。

今回、横田高校の先生方から直接お話を聞けたことで、高校で頑張っている生徒の様子がよく理解できました。横田高校の活動は、毎月発行の「稲田が丘」、公式LINE、フェイスブックで情報発信されており、高校生の活動を知ることからつながりをもち、応援していくことが大事だと改めて感じました。横田高校の益々の発展と生徒の活躍を期待しております。

雲南支部総会

女鹿田 あや子

(第48期)

11月16日令和5年度稲陵会雲南支部総会を開催しました。

稲陵会より石原会長、細木副会長、末森副会長、横田高校より深田校長先生のご出席をいただきました。総会の議事では、会務及び会計報告があり承認されました。校長先生から生徒達の学志向

上、部活動の状況が紹介されました。

後輩達が活躍している様子を伺うことができました。また懇親会では、石原支部長の横田高校入学当時の話で、大雪で体育館の屋根が壊れ大変だった事など懐かしい思い出話を聞くことができ当時にタイムスリップしたようでした。私はその3年後に入学したので旧校舎から新校舎へ椅子など運んだ事を思い出しました。コロナ禍が収束しつつある中、久しぶりの親睦会でしたが楽しい時間を過ごさせていただきました。

最後になりましたが稲陵会の皆様のご健康と母校の益々の発展を祈念申し上げます。

布勢支部総会

事務局

山根 富則

(第54期)

令和5年11月24日(金)午後7時から稲陵会布勢支部令和5・6年度総会を布勢コミュニティセン

ターにおいて開催しました。

当日は、来賓として稲陵会から地元出身の石原会長にもご臨席を賜りました。石原会長からは、はじめに横田高校における部活動、生徒、進路等の近況並びに稲陵会本会及び各支部の現況等について、言葉の端々に母校愛と稲陵会に対する熱い思いを感じる説明がありました。

また、近年、会員数が減少する中であって、母校及び奥出雲町への愛着、郷愁を醸成し会員相互の親睦、絆を深める各支部の活動に対し、改めて経緯と感謝の言葉をいただきました。



総会においては、提出した活動

経過報告、収支決算(会計監査報告)、会費の賦課徴収、次年度の事業計画及び予算案、役員改選のことについて熱心に審議を行い、出席幹事からの意見により、会費の支部への納入時期に若干の修正を加えたうえで議案の全てが承認されました。

なお、この度の総会においては役員の交替はなく、現在の役員については次のとおりです。

支部長 渡部 雅男
副支部長 石原 重則
副支部長 吉川由希子
監事 恩田 嘉明

監事 多根 和夫

幹事 山根 富則(事務局)

幹事 石原 重夫(会計)

幹事 恩田 昌実(評議員)

最後になりましたが、会員皆様のご健勝及び稲陵会並びに母校の益々の発展を祈念申し上げます。

教職員の会

幹事長

加野 幸雄

(第60期)

コロナ禍により三年間開催を見合わせていましたが、今年は第十九回(通算すると三十九回目)稲陵会教職員の会を来賓の方を含め二十名の参加を得て開催に至りました。

開宴前には、能登半島地震で尊い命をなくされた方々のご冥福をお祈りし、哀悼の意を表して黙祷を捧げました。

懇親会の冒頭「その空の深さがごとく」の校歌を参加者全員で斉唱、そして松原会長から、三年間開催できなかったことや故郷奥出



雲、横田高校に寄せる思いなどを
含めた挨拶がありました。

来賓祝辞では、稲陵会本会の石
原会長様から、奥出雲町の様子や
ホッケーをはじめとした生徒達の
健闘ぶりなど、過去のエピソード
交えながらのお話をいただきま
した。

この会の発起人の一人、中筋弘
充様の乾杯のご発声のもと懇親会
が始まりました。

宴たけなわの中、母校の深田校
長先生、安食教頭先生から地域に
根差す母校の様子、後輩たちの活
躍の様子が紹介され、大いに盛り
上がりました。また高尾小学校



「にこにこ寄席」と繋がりのある
玉野二三男様には、ギターの弾き
語りをしていただき、静かな気持
ちで聴き入る至福の時間になりま
した。参加者の年代は様々でした
が、様々な繋がりや縁があること
を感じるひとときでした。

また今回、横田高校の旧職員と
して藤本章章様(元母校校長)石
倉修先生(隠岐高校)、稲陵会松江
支部より糸原勝則会長や板垣正明
事務局長のご参加があり、会に華
を添えていただきました。誠にあ
りがとうございました。

なかなか話が尽きない中、会の
締めとして「参道の桜咲きほこる」

で始まる旧校歌を合唱し、河角静
様のご発声による一本締めにより、
多くの会員と共に再会することを
約束し閉会となりました。

広島・山口支部総会

事務局長

田中啓一

(第54期)

去る令和6年1月20日(土)、広
島市東区の広島ガーデンパレスに
おいて令和5年度稲陵会広島・山
口支部総会を4年ぶりに開催しま
した。やはり、4年間のブランク
は厳しく、会員16名の出席に留ま
り、コロナ禍前から3割減となり
ました。さて、総会には、本部よ
り石原肇会長、支部間交流として
小田川謙一阿井支部長、深田新横
田高校校長先生に遠方より参加い
ただきました。石原会長からは、
生徒数の減少や会員数の伸び悩み
で在校生の全国大会への補助など
が大変厳しい状況にあるとの現状
の説明がありました。深田校長先
生からは、ホッケー、剣道、美術



部、演劇・放送部などの全国大会、
中国大会での活躍などご紹介をい
ただきました。支部としても今後、
稲陵会本部からの寄付金等の依頼
があれば協力していくことが必要
と再認識しました。当支部の事業
報告ですが例年の総会開催や関西
稲陵会などへの参加や瀬戸内奥出
雲会と共に発行する会報などを事
業の柱で行ってきました。これら
事業もコロナ禍で開催中止などで
全く活動ができませんでした。さ
らに新規会員の参加もなく、前回
参加の会員に総会出席を呼びかけ
ることに留まり今後の課題と認識
しました。



しました。人事案については令和
6年度も引続き、現役員を1年間
留任とすることです承されまし
た。校歌斉唱の後、最後に出席者
全員で集合写真を撮り令和5年度
の総会を終了しました。引続き全
員で「第7回瀬戸内奥出雲会の集
い」に参加しました。小田川阿井
支部長と松崎通郎さん、内海(旧
姓安部)京子さんは53期の同級生
で卒業以来の再会となり旧交を温
めておられました。最後にこの活
動記を書きながら、母校へのパッ
クアップやコロナ禍後の活動の在
り方などふつふつと考えさせられ
ました。

会員様より本を贈呈していただきました

「石照の庭（堀江洋伸とその時代）」

雲南市の国道314号線を木次から奥出雲町方面に進むと、温泉地区の左側に、「石照庭園」がある。池の周りには、春になるとシャクナゲ・花ショウブ・桜が咲き、秋には、紅葉等を鑑賞することができ、訪れる人々を癒してくれる。この庭をつくり、管理運営したのが、堀江洋伸氏（第30期）である。



本（石照の庭）



校舎中庭の石

この本には、堀江氏の横田高校時代の思い出等も綴られている。稲陵会雲南支部長もされた。また、横田高校創立70周年記念事業として、校舎中庭の大きな石は、稲陵会員の寄付金を基にして、稲陵会雲南支部長としての堀江氏が設置したものである。洋伸氏の子息堀江研次氏が庭園の運営と本の編集を企画した。

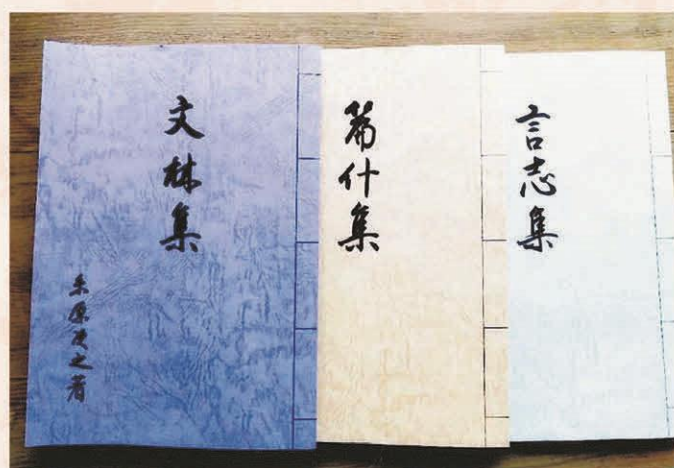
「文林集（ぶんりんしゅう）漢詩第3集」 糸原次之（第42期）著

糸原氏は、松江市内の小学校長を定年退職後、漢詩集三編を出版されている。この度、第1集（言志集：げんししゅう・H28年12月発刊）、第2集（篇什集：へんじしゅう・R2年12月発刊）に続いて、第3集（文林集：令和5年）を発刊された。本を開くと、同期第42期の藤原弘道氏の口絵「篆刻（てんこく）」が載っている。

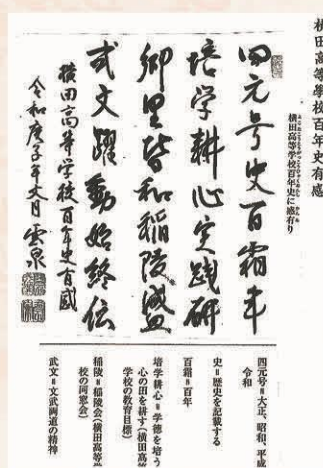
糸原氏の実家は、奥出雲町大馬木にあり、棚田百選にも選ばれている大原新田の近くにある。仁多米金賞受賞や、吾妻山の事、また、イチョウで有名な金言寺（住職は第40期田中克彦氏）等を題材とした漢詩が多く載せられている。横田高校の創立百周年を詠んだ漢詩は、第2集に収められている。

糸原氏の漢詩集に関するお問い合わせ先

松江市八雲台1-9-5 / TEL: 0852-24-7277



漢詩 3集



漢詩（百周年）



藤原弘道（第42期）「篆刻」

教育実習を終えて

千田 萌 愛 (第100期)

この度の教育実習では、校長先生、教職員の皆様、生徒の皆さんに大変お世話になりました。教育実習生として受け入れていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

実習期間中には、先生方から、また生徒の皆さんからも多くを学び、教師という職業のやりがいや大変さ、そして責任の重さを感じました。

高校時代に私は、教員免許を取得することができた大学を目指して受験勉強に取り組みました。当時、受験勉強で悩んでいる私の相談に、先生方は親身になって応えてくださり、アドバイスもいただきました。また、学力の現状を示すとともに、いつも前向きな声掛けをしてくださったことが今でも印象に残っています。生徒への前向きな言葉かけをすることでやる気や自信を引き出すことのできる教師が、目指す教師像の一つになりました。

教育実習では、大学の講義では得られない学びを経験し、実習という言葉通り実地訓練の大切さを痛感しました。生徒の皆さんの授業中の



「分かった!」という顔や、親しんでくれる笑顔がうれしくて、改めて教師という職業の素晴らしさを感じました。

母校の横田高校にて、生徒の皆さんや先生方、指導の先生に恵まれ、その中で小学校の頃からの夢であった教師になるための第一歩を踏めたことは自分の糧になりました。忙しい中、時間を割いてご指導してくださった先生方や、生徒の皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。

恩田賢二教諭 (81期)

伊藤直登教諭 (86期)

優秀指導者賞受賞



全国規模の大会において3位以上の成績を収めた、県内の公立学校に在籍する児童生徒を指導する教職員、10名が受賞する「優秀指導者賞」を、男女ホッケー部監督の両教諭が、受賞しました。恩田教諭は令和5年度インターハイ、選抜大会において女子ホッケー部を3位入賞へと導き、伊藤教諭はインターハイ準優勝、選抜大会優勝の栄冠を勝ち取りました。また、伊藤教諭は多忙な中クラス担任としてもその力を遺憾なく発揮し、「優れた教育活動表彰」も受賞しました。今後も両教諭の活躍に期待しています。

令和4年度 稲陵会別途積立会計決算書

1. 収入の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増 減 (B)－(A)	備 考
繰 越 金	2,560,704	2,560,704	0	
繰 入 金	50,000	50,000	0	経常費会計から繰入
雑 収 入	296	28	△268	預金利息
合 計	2,611,000	2,610,732	△268	

収入済額 2,610,732円（次年度に繰立）

収入済額の内 709,827円は定期預金、1,900,905円は普通預金

令和4年度 稲陵会名簿会計決算書

1. 収入の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	備 考
繰 越 金	660,835	660,835	0	
繰 入 金	50,000	50,000	0	経常費会計から繰入
雑 収 入	165	6	△159	預金利息
合 計	711,000	710,841	△159	

2. 支出の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	備 考
稲 陵 会 員 名 簿 作 成 費	40,000	39,656	△344	名簿データ更新経費
予 備 費	10,000	0	△10,000	
合 計	50,000	39,656	△10,344	

収入済額 710,841円－支出済額 39,656円＝差引残額 671,185円（次年度に繰越）

令和4年度 稲陵会経常費会計決算書

1. 収入の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	摘 要
繰 越 金	2,249,229	2,249,229	0	
会 費	1,008,500	1,008,500	0	@500×2,017名分
入 会 金	892,800	868,560	△24,240	1,2年生 @400×延1,445名分 過年度 @400×34名分 3年生 @480×延577名分
協 力 金	0	5,189	5,189	6名分
雑 収 入	471	21	△450	預金利息
合 計	4,151,000	4,131,499	△19,501	

2. 支出の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	摘 要
会 議 費	10,000	3,600	△6,400	評議員会
活 動 費	100,000	30,000	△70,000	支部総会助成金
通 信 費	450,000	465,936	15,936	会報発送（3,269通）、会報発 送用封筒 他
記 念 品	240,000	250,200	10,200	卒業記念品（ロディアメモカ バー ブロックメモ付）
慶 弔 費	50,000	10,220	△39,780	関西稲陵会事務局長 長谷川 健氏ご逝去によるお供え
印 刷 費	280,000	284,140	4,140	稲陵会報印刷（7,350部） 他
名 簿 会 計	50,000	50,000	0	
学校後援会	100,000	100,000	0	学校後援会負担金
別途積立会計	50,000	50,000	0	
稲陵会館維持費	150,000	30,000	△120,000	
事 務 経 費	300,000	300,000	0	事務委託料
雑 費	100,000	34,668	△65,332	男子ホッケー部全国大会3冠祝 賀広告掲載料 他
予 備 費	2,271,000	120,000	△2,151,000	男女ホッケー部総体・国体・選 抜3冠、入賞の御祝
合 計	4,151,000	1,728,764	△2,422,236	

収入済額4,131,499円－支出済額1,728,764円＝差引残額2,402,735円（次年度に繰越）

令和4年度稲陵会経常費会計 他決算監査書	
鳥根県立横田高等学校稲陵会会則第7条に基づき、稲陵会経常費会計、稲陵会別途積立会計、稲陵会名簿会計の 決算書及び出納簿、証憑書類等一切について監査したところ、適正に処理されていることを認めます。	
校内監査	監 事 山崎 慎司
	監 事 内田 和俊
	監 事 内田 人美
稲陵会監査	令和5年4月25日
	監 事 内田 功
	監 事 内根 裕文
	令和5年5月5日

稲陵会評議員会

*今年度は3年ぶりに評議員会を開催
致しました。（R5・6・26）

- 令和4年度会務・事業報告
- 令和4年度会計決算及び監査報告
- 役員改選
- 令和5年度会務・事業計画（案）
- 令和5年度会計予算（案）
- 稲陵会諸会計の会計事務の委任
- その他

令和5年度 役員

会 長	石原 肇（42期）
副会長	安部 隆（47期）
副会長	細木 敏幸（58期）
副会長	末森 江子（59期）
副会長	深田 新（校長）
監 事	内田 功（58期）
監 事	白根 裕文（59期）

県内・県外支部一覧

《東京》	支部長 三澤 啓二（45期）
《関西》	幹事長 藤木 真（60期）
《広島・山口》	支部長 小瀧 宏（52期）
《松江》	支部長 野村 裕教（48期）
《横田》	支部長 板垣 正明（71期）
《鳥上》	支部長 藤原 道則（55期）
《八川》	支部長 荒川 浩之（51期）
《馬木》	支部長 松崎 邦之（58期）
《三成》	支部長 唐桶 良弘（48期）
《阿井》	支部長 糸原 和弘（71期）
事務局	支部長 谷山 隆史（63期）
支部長	小田川 謙一（70期）
支部長	足木 嘉宏（76期）

校内事務局（幹事）

田中 智美（63期）	小田川七恵（76期）
佐野 孝史（63期）	恩田 賢二（81期）
内田 由紀（63期）	伊藤 直登（86期）

編集後記

第58号となる稲陵会報を今年度も上梓
することが出来ました。お忙しい中にも
かわらず原稿をお寄せ下さった皆様に、
厚くお礼申し上げます。有り難うござい
ました。

今年度は、5月に新型コロナウイルス
感染症が第5類指定になり、待ちに待っ
た各支部での活動も再開され、たくさん
の支部で会員が集い、同じ学び舎で過ご
した日々の思い出が語られました。今後ま
すますの交流が進むことを切に願います。

また、令和5年度も横田高校では、
ホッケー男子が全国選抜大会で連覇、剣
道部・美術部の生徒が全国大会に出場す
るなど、スポーツ・文化活動でもその名
を全国に轟かせました。これからも生徒
の多面的な活躍を応援していきたいもの
です。